

2015年2月13日
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
宇宙環境利用科学委員会委員長 石岡憲昭

第29回宇宙環境利用シンポジウム（旧・宇宙利用シンポジウム）について

宇宙利用シンポジウムは、これまで28回開催されてきました。その多くの講演が宇宙環境利用科学に強く関連している状況を踏まえて、本シンポジウムを「宇宙環境利用シンポジウム」と改称し継続開催することとしました。

物質科学・生命科学・基礎科学および関連する技術分野を対象として、第29回宇宙環境利用シンポジウムを2015年1月24日（土）、25日（日）の2日間にわたり、宇宙航空研究開発機構相模原キャンパスで開催しました。演題を募集したところ多数の申し込みがあり、一般講演46件、基調講演2件、招待講演3件の口頭発表で、のべ121名の方々が参加されました。宇宙に関連する材料科学・基礎科学・生命科学分野の研究について組織されているRTおよびWG活動の成果、それを基にする宇宙実験の構想をはじめ、地上研究や宇宙実験テーマなどの成果・進捗、さらに新たな領域・課題の提案が発表され、これらについて分野を超えた真摯な学術的討論がなされました。発表論文は、**Space Utilization Research 29**巻としてまとめ、刊行します。宇宙環境利用に関連する諸科学の展開に本発表論文集が参考となれば幸いです。

本シンポジウムは、宇宙環境を利用する科学の諸分野での成果を研究者間で広く討論する場です。全国の科学者が宇宙環境利用科学に関連する研究計画を提案し、関連研究者と議論することで、科学としての要望をまとめ、研究の方針や戦略を策定し実現していく上で、本シンポジウムは大きな役割を果たします。国際宇宙ステーションや衛星など貴重な実験機会で実施された宇宙実験の成果をはじめ、現在実験を提案されている、あるいは既に宇宙実験実施に向け装置等を開発されている研究チーム（RT）やワーキンググループ（WG）からの報告、さらには惑星や地球圏外環境などに関わる科学とその周辺の現況についての情報を共有することで、それぞれの研究分野の学術的意義を確認することにとどまらず、宇宙環境利用分野における学術の将来展望を広く研究者の間で論議されることを期待します。特にRTおよびWG活動を提案または継続しようとする研究者の方々には本シンポジウムで課題等を広く討論されることが強く望まれます。